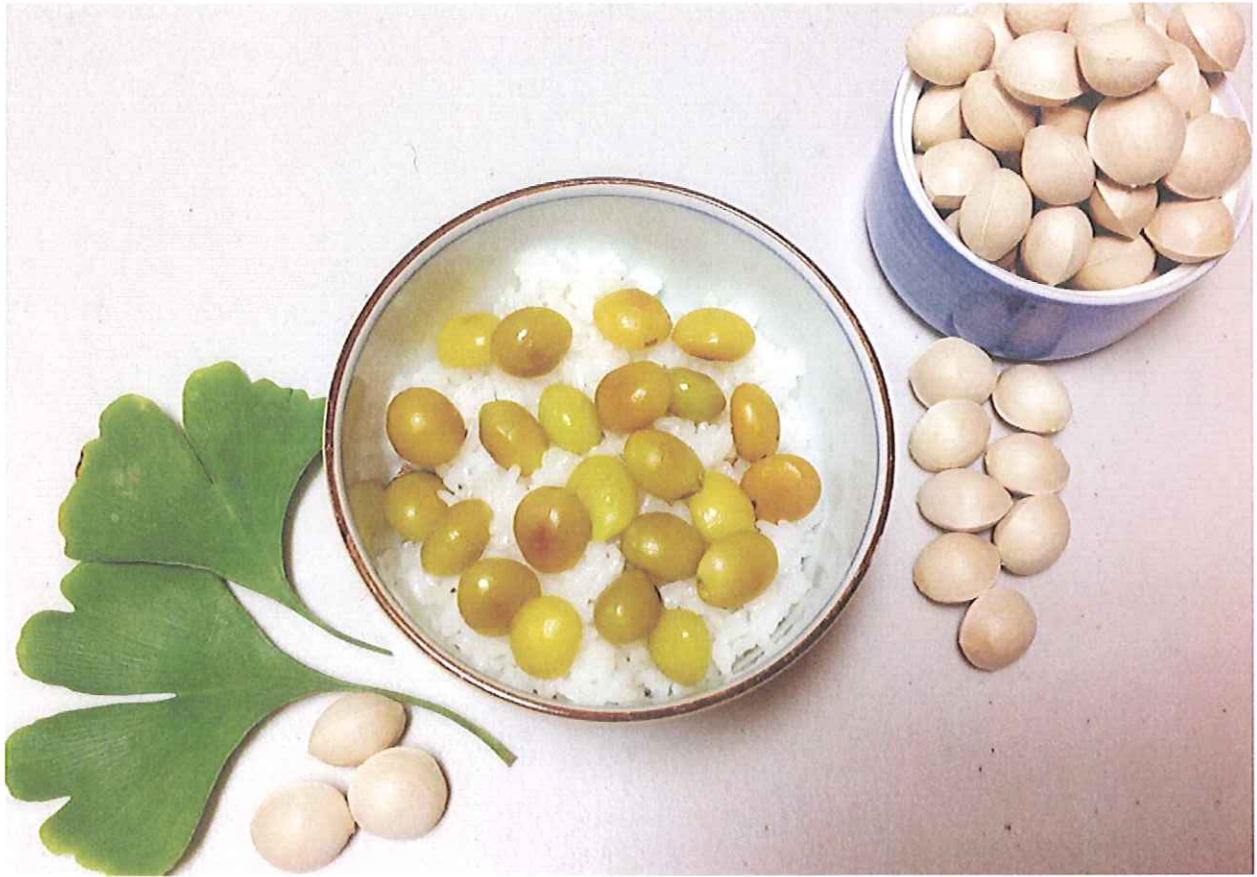
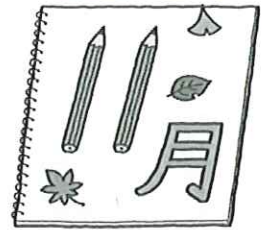


# ともしび

2013



木々の葉も美しく色づき、日増しに秋も深まってまいりました。今年も、明治神宮外苑のイチヨウ並木通りには鮮やかな黄金色に色づいた黄葉こうようを楽しもうと、多くの人々が訪れています。

イチヨウといえば秋の味覚、銀杏ぎんなんも是非いただきたいものです。熱を通すと、美しい半透明のウグイス色になり、独特の香りとはんわりとした自然の甘みを楽しませてくれます。私が修行をしていた永平寺では、境内に実る銀杏が集められ、銀杏ごはんぎんなんごはに料理されて修行僧に振る舞われます。当時の私は、銀杏を食べられることが楽しみで、においも気にせず張り切って拾い集めたものでした。

目にも美しく、美味しい銀杏ですが、皆さんご存知のとおり、食べ過ぎは禁物です。くれぐれもご用心を。

〈日比博英〉  
ひび たくえい

# 修証義しゆしやうぎをよむ

## 第一章 総序より

「最勝さいしやうの善身ぜんしんを徒らいたずにして、  
露命るめいを無常むじやうの風かぜに任まかずするこ  
と勿なれ」

Q、修証義って何？  
A、曹洞宗の教えをより多くの人  
に伝えるために明治時代につ  
くられたお経です。



修証義では、この世に人間として生まれてくること  
は極めて難しいことであると説かれています。たくさ  
んの奇跡とも言える繋がりや重なり合って、今日ここ  
に私たちのこの身体と命が存在しています。そして、  
仏様の教えに出会うという、素晴らしいご縁を頂いた  
私たちの命を「最勝さいしやうの善身ぜんしん」と言い表しています。

また私たち人間の命は、草花についた朝露あさつゆに譬えら  
れて「露命るめい」と表現されています。草花についた朝露  
は、昼には消えてなくなり、風が吹けば地面に落ちて  
なくなってしまうものです。そのようないつ消えると  
もわからない儂はかない命をあつけなく無駄にして、人生を  
虚しく過ごしてはならないという教えが、今回取り上  
げた言葉です。

確かに朝露の命は儂いものですが、草花の上で太陽  
の光りに照らされて輝いています。私たちの命も、ど  
のように過ごすかによって、輝かせることができるの  
ではないでしょうか。

私には三十歳を過ぎた従兄弟いとこがいます。彼は自分自

身に厳しく、前向きで明るい性格です。幼い頃からマラソンに励み、一日たりともトレーニングを欠かすことはありませんでした。毎朝、登校する前には十キロから二十キロのランニングを習慣としていたそうです。

そして彼はマラソンや駅伝の面白さを子どもたちに伝えたいと思うようになり、教員になります。赴任した高校では陸上部の顧問を勤め、また並行して彼自身も市の陸上競技大会に出場していました。

教員として八年ほど勤務していましたが、現在では貧しい国の子どもたちに夢を与えようと、アフリカのザンビアという国に滞在して、子どもたちに陸上競技の指導と走ることの楽しさを伝えています。

彼は、日に日に子どもたちの記録が向上していくことが嬉しくて仕方がないと話していました。子どもたちも彼の一所懸命な姿に惹かれ、一心に陸上に打ち込んでいます。中には短距離走で抜群の才能を持った選手がいるらしく、彼はその選手のオリンピ

ック出場を目指し、日々懸命にトレーニングに励んでいるそうです。

彼は幼い頃に抱いた陸上に対する情熱を燃やし、それを初志貫徹して、今度は世界の子どもたちに広めようと、日本から遠い地で今日も努力し続けています。彼は今できることを精一杯勤めています。

道元禅師も同様に、今を漫然と生きるのではなく、充実感と意志を持つて生き抜くことに重点を置くことで、命を有意義にはたらかせることができると仰っています。

私たちは人間として生まれてきて、恵まれた最勝の善身である今の命が最も尊い、素晴らしいものであることに気づかなければなりません。そして「露命」を自覚し、目的に向かって、小さな目標であつても日々を過ごしていくことでその人生を輝かせることができるのだと、修証義は教えてくれています。

私の

ふるさと



第十五回

阿武隈川  
あぶくま

## 市内を流れる阿武隈川

福島市内を悠然と流れる阿武隈川は、全長二三九キロメートルにも及び、東北地方の川の中でも二番目の長さを誇ります。

この川は私たちに四季を通して様々な顔を見せてくれます。春には様々な草花が芽吹き、夏には丁度お盆の終わる時期に合わせて花火大会と共に灯籠流しが行われます。秋にはたくさんのお赤とんぼが河川敷を舞い、冬が訪れる頃には白鳥や鴨といった渡り鳥がやってくるのです。

そういった四季の変化だけでなく、その日その日で川の流れや表情は大きく変わります。穏やかに流れる日もあれば、荒々しく流れる日もあります。そんな川の流れを眺めながら、飼い犬と共にゆつくりと散歩したのは良い思い出です。

私が子供の頃から変わらぬ風景。街並みや住む人が変わろうとも、この阿武隈の流れだけは変わらぬにいてほしいものです。

〈中野 孝海〉  
なかの こうかい

〒105-8544 東京都 港区 芝 2-5-2 曹洞宗宗務庁内  
曹洞宗総合研究センター 教化研修部門 一般教化課程  
ともしび法話会

TEL 03-3454-6844 FAX 03-3454-7180

2013(平成 25)年 11月1日発行 第 379 号